

核戦争を避けるのが我々の優先課題

【訳者注】トランプが、イスラエルの米大使館をエルサレムに移すという、あえて混乱と怒りを引き起こす、不可解な決定を、なぜしたのか？ この謎の説明として、これが最も納得のいくものではないかと思われた。報道される単純な怒りは、その背後に何があり、どんな力学が働いているかを知らないことからきている。メディアも国連も、アメリカの背後には何もなく、大統領が最高権力者だという前提に立っている。しかしP・C・ロバーツによれば「本質的に、トランプは無力である。」そこに基本的な認識の違いがある。彼は米大統領の事情を、レーガンの補佐官としての経験からよく知っている。トランプにとって事情は特別に厳しく、彼は多方面から暗殺の標的になっており（一部の者は、クリスマスまでに決行すると言っている）、頼れるものは全くない状況にある。そこで彼は、最も恐れられているイスラエル・ロビーに庇護を求めて、あえてイスラエルを利する行動を取った（と説明されている）。これは暗殺を避けるためだが、命が惜しいからでなく、自分が死ねば一気に大戦争に突入し、すべてが終わってしまうという、高所からの判断によるものと思われる。彼は背後権力に譲歩するよう見えて、就任のときの「ワシントンに人民の手に奪い返す」という約束を堅持している。彼は自分の評判を落としてでも、より高い世界の救済を選んだと考えてよいだろう。

Paul Craig Roberts

December 8, 2017, Information Clearing House

カナダの優れた教授である Michel Chossudovsky は、グローバリゼーションに関する研究センターと、西側売春メディア（presstitute）からは得られない、重要な情報源であるウェブサイト Global Research を指揮している。次の記事で、彼は、もし我々が平和でなく、戦争に焦点を当てなければ、我々すべてが死ぬことになると言っている：――

<https://www.globalresearch.ca/what-you-need-to-know-about-north-korea-and-the-dangers-of-nuclear-war/5615328>

チョスドフスキー教授は重要なことを指摘している。それは数年前、ズビグネフ・ブレジンスキーによって、最近では、元防衛長官ウィリアム・ペリーによって、私に知らされた。チョスドフスキー教授は、「過ちが、しばしば、世界史のコースを決定することがあることを、忘れてはならない」と警告している。アメリカが北朝鮮を攻撃するならば、それは核戦争を誘発する過ちになり得る。

チョスドフスキーが正しいことに疑いの余地はない。

さらに続けて彼は、ロシア、中国、イランの悪魔化は、核戦争を誘発する可能性があると言った。言い換えると、我々は、非常に現実的な、**ワシントンの創り出した脅威**に取り囲まれているが、西側政府や売春メディアはこれに注意を払っていない、ということである。12月5日に私が書いたように、我々は「ハルマゲドンに踏み込もうとしている」。

<https://www.paulcraigroberts.org/2017/12/05/walking-into-armageddon/>

チョスドフスキー教授が残してくれた、膨大な量の情報から、一方で、JFK/フルシチョフの冷静な頭の時代と、他方で、アメリカの軍/安全保障 - 複合体や、ネオコンの米世界制覇イデオロギーの、権力と利益のための敵対行為が再現した、狂気のポスト・レーガン時代の間には、きわめて大きな違いがあることが、明らかになる。

私には、西側世界の人民が、自国の政府に暴力をふるうことなしに、核戦争を防ぐための、何かができるとは思えない。なぜなら西側の政治家たちは、アメリカの世界制覇を利する、軍/安保 - 複合体や、企業利益グループから、カネをもらっているからである。アメリカの世界制覇は利益を生み出す。そしてこの利益のために、西側のリーダーたちは、世界の終わりを賭けようとしているのである。

私が何度も繰り返し強調してきたように、アメリカ人は、彼らののんきさと愛国心の結果として、政府や売春メディアから彼らを与えられる説明が、彼らの考えや信念をコントロールするような世界で、生活している。このようにして、政府と、政府をコントロールする利益団体が、市民から全く拘束されることなく、彼らのアジェンダを作っている。アメリカでは、おそらく西側世界全体を通じて、民主主義は全く存在していない。ジョージ・オーウェルは、これが1984年にそうになると予言したが、クリントン、ジョージ・W・ブッシュ、それにオバマの体制を経なければならなかった。今日、2017年には、ビッグ・ブラザーが確かに西側世界を支配している。

トランプの選出はレーガンのそれに似ていた。彼は、支配者の利益グループでなく、人民に訴えて当選した。私はレーガン政府の高位の役人だった者として、そして、レーガンの目標だった、スタグフレーションと冷戦を終わらせるために、協力した者として、支配することに慣れている強力な利益団体に、逆らうことの報酬が何であるかの、直接の体験をしている。我々は、彼らの支配の一部を彼らから奪ったが、今また彼らはそれを奪い返している。そして彼らは前よりも強くなっている。本質的に、トランプは無力であり、ツイッターで自分の欲求不満を述べることしかできない。

私の意見では、トランプが強いられているこの教訓は、どんな未来の大統領候補にも、アメリカ人民に訴えることによって、支配する少数政治家に逆らうなど教えている。

これは、アメリカの民主主義が完全に死んでいることを意味する。私は、民主主義は、暴力革命なしに復活できるだろうかと思うことがある。そしてもちろん、革命は間違った方向へ行く可能性がある。

アメリカ人民は暴力革命ができるだろうか？ もしそれが出来なければ、強欲なエリートがこのまま支配をつづけ、ついに核戦争へ突っ走るのだろうか？

かつて、統合参謀本部長のレムニッツァー将軍は、ケネディ大統領に、もし彼がOKを出しさえすれば、ソ連との核戦争に勝つことができると進言した。レムニッツァー将軍は、また、ケネディ大統領に、“ノースウッズ作戦”と呼ばれるニセ旗作戦を、米軍がアメリカ市民に仕掛け、これをカストロの仕業にして、キューバを侵略する口実にすることを提案した。ケネディ大統領は、レムニッツァーを、統合参謀本部長の職から降ろすことでこれに応えた。

多くの研究者の結論では、レムニッツァーの解任は、ケネディが共産主義に甘く、アメリカの国家安全保障にとって脅威であることを、軍/安保 - 複合体に確信させた。

オバマ政権はロシア脅威論を復活させた。トランプは選挙キャンペーンにおいて、ロシア脅威論の復活には歩調を合わせないことを明らかにした。そしてそのために、“ロシアゲイト”によって罰せられた。自分が特別検察官によって職を解かれるか、暗殺されるかもしれないと憂慮する大統領が、戦争への大行進に反抗することができるだろうか？

トランプは、大統領を護ることがアメリカを護ることだと信ずる、秘密警護隊に囲まれている。しかし、その秘密警護隊が、特別検察官や議会、それに軍/安保 - 複合企業や売春メディアによって、トランプは、アメリカに反逆し、ロシアゲイト陰謀により、ロシアと手を組んでいると信じこまされたなら、警護隊は、かつてジョン・F・ケネディ大統領を警護しなかったように、トランプを警護しなくなるかもしれない。

あなたは、オズワルドが、ケネディ大統領を暗殺したという虚偽報告から、身を護ることができる。それは、オープンカーのケネディを銃撃から護っていた警護隊員が、暗殺者がケネディを狙いやすいように、車から離れるように指示される場面を、オンラインで見ることによって可能である。あなたは弾丸が、ケネディの右のこめかみに当たり、頭のうしろへ突き抜けるのを見ることができる。あなたは、彼の妻ジャッキーが、車のトランクによじ登り、

大統領の頭の後ろ部分をを、取り戻そうとしているのを見ることができる。オズワルドが JFK を背後から撃ったというフェイク話は、それだけにしておくと、すべての証拠が、オズワルド説を反証している。それを証明するいかなる証拠もない。これは多くの作家による長年の調査の結論である。

多くの研究者が結論していることは、ウォレン調査委員会は、JFK が軍/安保 - 複合企業の要員によって暗殺されたことを知っていたが、委員会は、キューバ・ミサイル危機のあとで、アメリカ人民に対して、米政府が米大統領を殺したとは言えないことを、知っていたということである。冷戦中の難しい時期に、アメリカ人民は、自国の軍隊と安全保障体制に対する信頼をなくするかもしれない。私は、起こったことを隠ぺいする決断を理解できる。

とはいえ、責任者たちは、米国大統領を護ることができなかったという理由で、辞職させられるべきであった。そして将来、同じような不始末が起こることを防止するという名目で、CIA のブラック作戦担当部を、閉鎖に追い込むべきだった——ケネディ大統領がその意図をもっていったように。(後継の) ジョンソン政権がこの状況を放置したということが、大統領の意図に反して行動する権力を、安全保障部局の手に残すことになった。これは現在、CIA 長官のジョン・ブレナンや、FBI 長官のコーミーやミュラーによる、トランプへの攻撃に目撃されることである。

トランプは売春メディアによって、まぬけとして描かれている。しかしトランプは、まぬけではない。まぬけではないから、億万長者になったり、地上で最大の美女と結婚したりすることで、終わりにはしなかった。まぬけなら、2 大政党を支配する利益集団を相手にしたり、大統領選に勝つ自信をもったりしない。

トランプは決してバカではないが、彼は今、自分が実は、アメリカ大統領でないことを理解している。アメリカを支配しているのは、軍/安保 - 複合企業であり、大銀行やウォール街のために働く連邦準備銀行であり、採掘産業であり (これはトランプがユタ州の 2 つの国有天然記念物を、自分の利益のために荒らし、痛めつける、彼らの手に渡したことからわかる)、16 年間、ワシントンで中東で戦争させた、イスラエル・ロビーである。アメリカ人民は、それらの決定に何の関与もしていない。アメリカ人は、ナチ収容所のユダヤ人のように、ガザ特別地区のパレスチナ人のように、無力で、なすすべを奪われている。彼らは発言権がなく、ワシントンで決定されることに無関係である。

ひとたび、このことを理解すれば、**なぜトランプが、アメリカのイスラエル大使館を、エルサレムに移転しようとしているのかわかる**だろう。トランプは、これほど多くの方面からの攻撃にさらされれば、イスラエル・ロビーとモサドを手元に置く以外に、どうすることもできない

であろう。

トランプは、彼ら以外の誰に頼ることができるだろう？ アメリカ全土の、彼を選んでくれた人々は無力である。イスラエル・ロビーはそうではない。

トランプが、米大使館をエルサレムに移すと公言したことの、結果はどうであったか？ トランプが、アメリカの世界制覇の代わりにロシアとの友好を口にしたために、彼を亡き者にしようとしていたネオコンたちは、いま彼をほめたたえている。“トランプには死を”と言っていたリーダーの John Podhoretz できえ、トランプが国連と国際法を無視し、エルサレムを実質的にイスラエルのもので宣言したことに、賛辞を送っている。「ナショナル・レビュー」は、以前は保守の雑誌で、かつて私が寄稿編集者をやり、今はイスラエル・ロビーの従僕になっているものだが、この雑誌はトランプの行動を、“国際的な反ユダヤ主義に対する一撃”だと評した。

もしあなたが、ワシントンでひとりぼっちで居心地が悪く、絶えず売春新聞や軍/安保 - 複合体の攻撃を受け、特別にあなたを起訴し、あなたを追放するために任命された、特別検察官に取り調べられていると仮定して、ただ一つ、誰でも震え上がるような利益団体があり、これに頼れるとしたら、あなたは、イスラエル・ロビーとモサドの保護を求めないだろうか？ もしそうしないとしたら、あなたはバカであろう。何十年も前から知られていることだが、CIA にはモサドが大勢入り込んでいる。トランプは、もし CIA が彼を暗殺しようとしたら、事前にそれを知ることができる。

そこで読者の皆さんが、なぜトランプは、イスラエルの完全なパレスチナの占領に、道を開いてやったのかと私に訊ねた。おそらく、その答えは、トランプは、強力なイスラエル・ロビーが、彼を捕まえようとしているミュラーや軍/安保 - 複合体から彼を保護してくれることを、望んでいるということだろう。

トランプが、イスラエル・ロビーの庇護を求めたということは、おそらく、望ましい展開である。モサドは、もちろん CIA より有能である。もしイスラエル・ロビーがトランプを保護する気があれば、おそらくトランプは、軍/安保 - 複合体からの攻撃に生き残ることができ、現実には、2大核大国の間の信頼を回復するであろう。イスラエルは、地上の生物を保存することで、何を失わねばならないだろうか？ イスラエルはすでに、国際法に逆らって、国連の決議を獲得している。そしてそれに応ずるアメリカとヨーロッパは、パレスチナのすべてを得ている。イスラエルは、アメリカ帝国がネイティブ・アメリカンから奪ったものを、奪っている。そして今、トランプがイスラエルに、最後の獲物——エルサレム——を与えようとしている。イスラエル・ロビーが、トランプを保護しないわけがあるだろうか？

アメリカ人は、ユダヤ人を思いっきり(法に反するところまで)ののしってもよい。しかし、もしイスラエル・ロビーが、西側世界で唯一の、ロシアとの関係を正常化し、高い緊張をほぐそうとする政治家を救うことができるとしたら、何をののしることがあろうか？

もしもイスラエル・ロビーが、我々この惑星を、核の破壊からを救うとしたら、彼らにもっと力を持たせるべきだ。長く苦しんできたパレスチナ人が、生贄の子羊になることは不幸なことである。しかし、咎はトランプにあるのか、それとも、軍/安保 - 複合体や民主党全国委員会、また、トランプを絶望状態に追い込んだ、売春メディアにあるのか？

――以上